

令和元年度第1回座談会を開催！

6月9日(日)、健康文化センター4階ほほえみホールにて、南地域をよりよい地域にしていくために、地域の困りごとを各部会にてだしあい、今後の活動について話し合いました。今回の座談会で出された意見の一部を紹介します。

○福祉・防災部会

- ・『元気(健康)』『実践』をキーワードに地域でできることを考える。話を聞くだけでなく体験型の取り組みにしていきたい。
- ・地域の中で既に実施されている取り組み(地域で行っている防災訓練等)や団体との連携を行う。



○防犯・交通安全部会

- ・交通に際し、危険と思われる場所が地域には存在している。危険場所の解消を目指したい。
- ・子どもたちが危険を感じたときに、避難しやすい場所を増やしたい。

○広報部会

- ・読んでもらいやすい記事づくりをする。報告ばかりではなく、四季の花の情報や豆知識などを盛り込む。
- ・地域の工事・通行止め箇所などの道路情報をお知らせすることで、地域交通の混雑解消ができるのではないか。

南地域のたからもの vol.22 ～「肝銘学校」の名残り～



南地域のたからもの vol.1.2
でご紹介した大屋敷にある長
松寺。

ここは明治8年(1875)
に「肝銘学校」が創立しました。
当時の「肝銘学校」は大屋敷村
の子どもだけでなく、外坪村
の子どもたちも通っていたそ
うです。

明治10年(1878)には
「大屋敷学校」に改称し、大屋敷村の子どもたちだけ通うようになり
ます。その後は前回ご紹介した豊田学共ニ太田尋常小学校へと集約さ
れていきます。

実は「肝銘学校」の名残りを現在でも見ることができます。それは
大口中学校の講堂「肝銘館」です。講堂は昭和59年(1984)に
完成しましたが、その際に命名されたそうです。約140年前の大屋
敷の学校のはじまり、その伝統が同じく大屋敷に所在する大口中学校
に引き継がれています。

まめちしき

瓦版とは

江戸時代の印刷技術の1つで、粘土板に文字や絵をかき、焼いて原
板とした。この原板の形が瓦に似ていたことが言われのようです。

そして、この板で刷った江戸市中で起きたさまざまな事件などをニ
ュースとして売り歩いたとあります。

しかし、明治になると新聞等がこれにかわり、
瓦版は急速におとろえていきました。